仲間と共に

学校目標「めあてをもち　仲間と共に　やりぬく心」　　令和7年7月1日

「生きる」ということ

校長　石田耕太郎

先日、「校長先生、この間とても嬉しいことがあったの！」と読み聞かせボランティアの方が話しかけてくださいました。

「この前私は『宿題』という本を読んで、子ども達に『今日帰ったらお家の人を“ギュー（抱きしめる）”っとしてね』と子ども達の宿題にしました。そうしたら、後日知り合いのお母さんから、『先日仕事から帰ってきたら、子どもが“ギュー”としてくれてとても嬉しかった。そして、最近私は子どもを“ギュー”としていなかったなぁと思い返しました』と話してくれました。それを聞いた時、子ども達と思いがつながっていることを感じてとても嬉しかったの！」とのことでした。さらに、「担任の先生も『明日の予定の宿題』の所に“ギュー”って書いてくれていたようで、先生たちとも思いがつながって余計に嬉しくなったの！」とお話を続けてくださいました。

よく、『「家庭」「地域」「学校」の三者が一体となって子育てをしよう』と言われます。先のお話を伺ったとき、まさに『三者が一体』ということを実感しました。「地域」の方の思いを「学校」が子どもに返し、子どもを通して「家庭」が応える。その出発点は、コトにより違ってきますが、三者が一つの思いをつなげることで、子どもが育ち、その育ちを通して、誰もが幸せを感じる事ができる。私自身が、お話を伺い幸せな気持ちをもつことができたとともに、我が子から“ギュー”とされた時のご家族の様子を想像すると、さらに幸せな思いが強まりました。

私はコロナ禍以降、近くの低山を登る趣味ができました。登山をしていていつも２つのことを感じます。一つ目は、「頂上は一つだが、そこに至る道は幾通りもある」ということです。ゴールである山頂は一つですが、登山道によって道中に見える景色が全く異なり、新たな発見があります。同じ登山道ばかりを登っていては、決して見えない世界に気付かせてくれます。そして、最終的には同じ頂から共通の景色を見ることができ、より楽しみが増すのだと思います。そして、二つ目は、「時には、立ち止まり、引き返すことも大切である」ということです。登っている途中で雨が強くなったり、雷が鳴ったりすることがあります。そんなときは、「せっかく来たのだから！少し無理してでも登ろう！」と思うときもありますが、そんなときこそ引き返します。そして、別の日に再度挑戦をします。心に少しのゆとりがあることにより、見える景色や感じ方が違ってきます。

校庭の隅に、ネジバナが咲いていました。その捻じれた姿とユニークな名前に少しほっこりとします。ネジバナの色々な方向を向きながらも真っすぐに、螺旋状に天を目指して花を咲かせる様子は、私たちの考え方のあり方を示してくれているようです。「悩んだり、立ち止まったりしてもいいじゃないか。それが、生きるということだよ」っと。